

# 令和5年度 第2回 信州幼児教育支援センター運営会議

学びの改革支援課

## 1 日 時

令和5年10月26日（木） 10:00～12:00

## 2 開催方法

オンライン開催

## 3 参加者

【長野県立大学】こども学科長 太田 光洋（信州幼児教育支援センター長）

【長野県保育連盟】会長 海野 暁光

【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】理事長 大森 けい子

【長野県野外保育連盟】理事長 内田 幸一

【長野県県民文化部】こども若者局長 高橋 寿明

こども・家庭課 課長 中坪 幸恵

保育係長 大口 泰弘

次世代サポート課青少年指導主事 保坂 実

【長野県教育委員会】教育次長 曾根原 好彦

教育政策課 主事 赤羽 優介

特別支援教育課 指導主事 伊藤 健生

学びの改革支援課 主任指導主事 田中 誠

指導主事 鈴木 崇晃

幼児教育コーディネーター 橋爪 典子

## 4 内 容

### (1) 挨拶：曾根原教育次長

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っており、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に基づき、各園の創意工夫を生かした質の高い教育の実践が求められている。

当センターの目的は、園種を越え、「オールながの」の運営体制で、幼児教育の現場を支え、幼児教育の質の向上を図ることにある。

今年度は、フィールド研修を、実践園と参加園が共に自園にとっての最適解を考える往還型・探究型の研修にシフトしたり、将来を担うミドルリーダーの育成を目指したミドルリーダー研修をプレ実施したりしながら、県内すべての園に向けて、保育者の資質及び専門性の向上のための支援を重ね、幼児教育の質の向上に寄与できるよう取り組んできた。

また、幼児教育で育まれた資質・能力を、小学校教育を通じて更に伸ばしていくためには、園と小学校の職員が、両者の教育について理解を深めていくことが重要であると思料。今年度は、園と小学校の職員が一堂に会し、共に学び合う園小接続研修や、フィールド研修の園小接続会場の実践を通して、円滑な園小接続が実現するよう取り組んできた。

本日は、本年度のセンターの取組の様子をご報告させていただき、皆様から御意見をいただくことで、今後の事業の運営の方向を明らかにしていきたいと思料。忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願ひしたい。

## (2) 協議

### ① 令和5年度信州幼児教育支援センター活動状況について

#### 【田中主任指導主事】

- ・フィールド研修について。参加園数は資料のとおり。満足度は90%を超えるものがほとんどで、好評をいただいている。往還型・探究型の研修形態とした。第一回目の北信会場で実施したところ、グループワークでの話し合いで深まりに欠いた反省から、東信会場以降は事務局や実践園の先生方で司会をしたり、話し合いの視点についての説明を厚くしたりするなどの対応をした。以降の感想からは話題の深まりにより評価をいただいた。来年度はスタート研修から研修に対する課題意識が高まるようにしたい。

#### 【内田理事長】

- ・グループトークでの課題意識を大事にしたい。この方向でよい。

#### 【海野会長】

- ・参加園の立ち位置を確かめられるといいか。チャート形式の資料等で自園の課題を客観視し、その上で改善の方向を考えていかれるようにしたい。

#### 【田中主任指導主事】

- ・保育者研修体系の構築について。キャリアステージ研修の参加者、満足度は資料のとおり。昨年よりもキャリアアップ対象の参加者が減少している。ニーズは強く、来年度も継続していく。基礎形成期の先生方には5月の早い段階で研修を実施したい。研修内のグループトークに好評をいただいている。講師と相談し充実させていく。

#### 【大森理事長】

- ・対面でできる魅力も捨てがたい。最近も対面で研修を行ったが、参加者の熱量が違う。参集開催の方向も模索していきたい。

#### 【海野会長】

- ・「この園だからできる」という思いをなくしたい。私立だからできる、公立だからできるではなく、同じ立ち位置に立って考え合えるように意識改革を。

#### 【太田センター長】

- ・直接話し合えることが、研修満足度にもつながっていくだろう。

#### 【内田理事長】

- ・直接語り合える研修に戻していく必要もある。経験を言語化することで、保育者は育っていく。ミドルリーダーが研修立案者となって、近いところで参集できるようになっていくとよい。

#### 【田中主任指導主事】

- ・保育者育成指標について。現在3つのポイントの作成を進めている。健康・安全にかかわって、保育者に加えて子どもを主語にした考え方も必要だという意見から、各キャリアステージにおける保育者の姿も変えていく。11月の専門部会で話し合う。

#### 【海野会長】

- ・管理職期について。主役を若手に譲っていく時期。若手の意見を取りあげることができるように。

#### 【内田理事長】

- ・指標⑭地域との連携について。地域資源の掘り下げは今後必要になる。また、園外での遊びは安全を考えることとリンクする。地域に出ていくからこそ安全管理につながっていく。

#### 【大森理事長】

- ・遊び＝学びの理解が進んでいない。保護者にわかりやすく伝えていきたい。「遊びって大事だよ」ということを社会に伝えていく。

【太田センター長】

- ・養成校の志願者が減っていることも看過できない。高校生に関心を持ってもらえる取組も考えたい。

【田中主任指導主事】

- ・園小接続研修について。参加者、満足度は資料のとおり。小学校の参加が昨年よりも増加している。来年度も継続の方向。来年度は、フィールド研修の園小接続会場参加者も、本研修に参加必須とする。詳細は後述。

【海野会長】

- ・特別支援の視点での連携が現場の意識だ。特性をもつ子どもたちにとって最もよい学習環境を考えるための情報交換が先生方にとって重要。そのためにも学校におけるインクルーシブを実現させることは急務。園小と保護者とが共通の認識に立てるつながり方の一つとして、体験入学の期間を延ばしたり、入学後も園に通って遊ぶ時間をつくったりするなど、柔軟な発想が求められる。従来の、卒園後即入学というシステムだけでは対応できない現状になってきている。現場の今のニーズに合わせた、支援が必要な子どもの接続について考えられる研修を盛り込むことも考えられないか。また、子どもが主役の接続も考えたい。プレスクールの試み。園の活動の一部として、年長児が1か月学校に通う、など。学校の生活に慣れていくことができる。

【田中主任指導主事】

- ・園小接続推進会議について。現在16市町村の申込。南信地域が多い。
- ・ドキュメンテーション研修について。今年度は基本編と応用編を実施。内容は資料のとおり。満足度は高く、自分のスキルに合わせて参加できるよさがある。来年度も継続。来年度も内田先生にご講演願いたい。

【内田理事長】

- ・今回のような内容でよければ。承諾した。

【田中主任指導主事】

- ・ミドルリーダー研修について。今年度はプレ実施。全4回のうち、2回が終了。18名に参加いただいている。「経験の近い先生方と意見交換できる」「レベルの高い話し合いができた」など、好評をいただいた。来年度は本格実施、最大87名の参加となる。研修場所、形態など工夫が必要。全6回を計画。講師の招聘も計画している。研修終了者を幼児教育アドバイザーとして登録。地域の研修の中心となっていただく。

【大森理事長】

- ・今年度は、計画から推薦の締め切りが短く、苦難した。通知を早く、内容を分かりやすくするなどの工夫を。

【海野会長】

- ・第1回に参加した。ICTを使っていて今の学校はこうなのかという印象をもった。楽しい研修だった。いろんなタイプのミドルリーダーがあつていいという気付きの場になれば。

【内田理事長】

- ・アドバイザーになった後も、つながっていかれるといい。園訪問の経験を語り合える機会をつくってほしい。

【太田センター長】

- ・ミドルリーダーの研修を通じて、同世代、経験的にも大体同じような経験を持った人たちで、自分たちの経験を踏まえた上で交流ができて話を深めていくということは、教育者として一番やりたい部分だ。自園に持ち帰っても様々なことに生かせる。アドバイザーとして他園に訪問する場面でも、自分の実践や経験を活かしたアドバイスができるようになるかと思う。相乗的な効果がたくさん生まれてくる可能性がある。充実したものにしたい。

### 【田中主任指導主事】

- ・総合教育センター実施の講座について。昨年度より実施。参加者が減っているものの、来年度も継続する。周知の方法を工夫する。総合教育センターの研修講座は、学校向けの印象が強い。本講座を含めた幼児教育担当者が参加できる研修を、幼児教育支援センターの研修一覧に載せることで、園の先生方へのメッセージになる。
- ・幼児教育アドバイザー連絡協議会について。実施の状況は資料のとおり。来年度以降は増員の予定。現在の4名の幼児教育アドバイザーをスーパーバイザーに位置付け、指導助言をすることで資質向上につなげたい。
- ・「おさなご」「すこやか」への掲載について。資料のとおり。今年度はあと2回掲載予定。
- ・令和5年度信州幼児教育フォーラムについて。フィールド研修実践園の先生方にご参加をいただき、実践について、これからの幼児教育について話し合えるようにしたい。あまり堅苦しい形にせず、気軽にやりとりができつつ深まりのあるものを目指す。

### ② 令和6年度の運営ビジョンについて

#### 【田中主任指導主事】

- ・3つの柱を、①子どもの姿と保育者の実践に学ぶ みんなが主役のフィールド研修、②園小接続の充実 園小接続プロジェクト・園小接続研修・園小接続推進会議、③地域自走型研修体制の構築 ミドルリーダー研修、幼児教育アドバイザー派遣 と考えた。
- ・R5は、研修体系の構築が柱としてあったが、1.4を作成することで区切りとなる。周知させたり、活用したりしていくというものは残るが、それに変えてこの3つを柱に据えたい。
- ・①子どもの姿と保育者の実践に学ぶについて。  
来年度は、フィールド研修と園小接続研修を切り離したい。スタート研修のねらいが違うため。探究型の研修ではスタート研修が課題の設定に当たる。4つの実践園のスタート研修では、研修テーマとプレゼンにより参加する先生方が自園の研究の方向にあった実践園を決めていた。園小接続研修については、参加する会場が決定した上でどういうことをやっていくか、問題意識を具体化したり、取組の見通しを持ったりする。スタート研修のねらいが違う。探究そのものが違う道筋で進んでいくため、切り離す必要があると考える。
- ・メリットとデメリットがある。従来の研修は、講演等を聞き、自分の実践に重ねながら理解したりやってみようという気持ちをもったりする内容。受講者の負担が少なく参加者が増えるメリット、実践につなげるかどうかは受講者次第というデメリットがあった。探究型の研修は、実践的なプロジェクトに取り組みながら課題を見つけ出したり、正解のない問題を解決する力を育んだりということを大事にしていく。研修の効果は高まるメリットがある。一方で、受講者自身に対する負担が大きくなり、参加者が減るといったデメリットも考えられる。事務局としては探究型にすることにしたい。
- ・②園小接続研修の充実について。  
接続プロジェクトとして研修を進める。フィールド研修と同じように、実践校園と参加校園が、共に実践を重ね、自分たちの実践を研修テーマに沿って発表しながら高め合っていく。こちらもスタート研修での課題意識が重要になる。また、園小接続研修を本プロジェクトに参加していただく皆さんに必須とする
- ・③地域自走型研修体制について。  
ミドルリーダー研修が来年度本格実施になる。全6回を目安に進めていきたい。探究型研修にするため、スタート研修の位置づけが重要になる。幼児教育の質の向上はもちろんだが、研修を自分たちで立ち上げることができるようになってもらうこともねらいにしたい。ここで学んだ方がアドバイザーとして各地域に散らばっていき、それぞれの地域で研修会を作る。これが、県全体の幼児教育の質の向上に繋がっていくのではないかと見通している。

【太田センター長】

- ・参加者が少しはいるか。参加する人たちの負担というか、事前の課題を持って取り組んでもらうという形になると考える。

【海野会長】

- ・チャート等に答えると「あなたの園はこんなタイプです」ということが示されたり、課題が明らかになったりするシステムが欲しい。勝手に思い込む課題ではなく、客観視できるようなもの。外部委託、または作成のための予算を確保することはできないか。

【大森理事長】

- ・フィールド研修、協会として協力できない状況で申し訳ない。協会独自で行っている事業があり、難しい状況。なるべく協力したいと思っている。

【鈴木指導主事】

- ・海野会長からお話いただいた件は、予算を取ることは難しいかなと思う。ある市が評価スケールに取り組んでいる。県と市と連携、市の協力をいただきながらやっていくことはできるのかなと思う。市で取り組んでいる評価スケールと、先ほどの園の実情を評価することには、連携性とか親密性というのはあるか。

【海野会長】

- ・市でやっている評価スケールを用いて、お互いに見合うことをしている。国立教育政策研究所、幼児教育研究センターで検討されている。幼児教育における、教育実践の質、評価スケールを用いるのがわかりやすいのではないか。

【太田センター長】

- ・協議をここまでにしたい。支援センターもスタートしてから苦勞してここまで進め、成果も上がってきていると思う。5年ぐらいしたところで総括をする。例えば育成指標が次は1.4になる。1.4から次は2.0とかってなっていくと思う。そういうところも含めて中期的な方向性を検討していけたらいい。

(3) 連絡事項

【田中主任指導主事】

- ・次回運営会議は年度明けになる。センターの方向性、こういう方向に進んでいったらいいのではないかということ、運営委員の皆様から示していただきたい。それをもって専門部会で企画、立案できる。いいアイデアを事務局にお寄せいただきたい。

【太田センター長】

- ・子ども若者労働局長の高橋さん、一言お願いしたい。

【高橋局長】

- ・長時間熱心にご議論いただき、感謝。この幼児教育の関係で、多くの研修が行われていることがよく分かった。長野県としても、保育士の不足の関係も含め、検討していきたい。

【太田センター長】

- ・地域ごとの研修体制をうまく構築していければ。将来的には関係する機関どうしの連携も必要になっていくと思う。担当課の皆様もよろしくご協力をお願いしたい。